

147 舟つなぎ石



現在



指定当時

指 定 市 史 跡 昭和25年12月1日
 所在地 塩名田千曲川河川敷
 所有者 国土交通省



塩名田と御馬寄の間の千曲川は流れが急で、橋を架けても洪水でじきに流されていた。ここは江戸時代の主要街道の中山道であり、渡川の必要性は一刻をあらそった。船で人や荷物を渡す舟渡しが行われたり、正徳2年（1712）には幕府により「中山道塩名田宿・御馬寄村の間千曲川橋組合」（佐久・小県郡内の103村があたる）が組織され、再び橋が架けられた。

幕府の崩壊とともにこの組合の維持管理ができなくなり、明治6年（1873）にあらたに船橋会社がつくられ、船橋（九艘の船をつないで、その上に板を架け渡して橋としたもの）が架けられ、渡川が確保された。

「舟つなぎ石」はその船橋の舟をつなぎとめたもので、上部に穴が開けられている。

その後、明治25年（1892）に県により木橋が架けられ、船橋とともに舟つなぎ石はその役割を終えた。こうした渡川の歴史を今に伝えている。